

杉の子

奥多摩町立氷川小学校
学校便り 9月号
令和5年 9月 1日発行



「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

校長 松井 良

1学期末に、運動会実行委員から今年の運動会のスローガンが発表されました。

「一人一人が主役！チームで協力！記念の運動会をつくりあげよう！」

創立150周年記念運動会となる今年の運動会は、「子どもたち個々の活躍が、赤組白組それぞれのチームの貢献につながる」、そんな行事となることが期待できそうです。

「令和の日本型学校教育の構築を目指して」という中央教育審議会の答申(令和3年1月26日)の中に、「個別最適な学び」、「協働的な学び」というキーワードが使われて以来、この二つの充実を図ることが学校教育において求められるようになっていきます。

「個別最適な学び」とは、経験値や既習事項の獲得具合など、異なる個々の学習のスタート地点から学習のゴール地点までの道筋や行き方を個々に選んで調整するという学び方です。例えば、電車の出発駅から到着駅までのルートを検索すると、いくつも候補が挙がってきます。早く着くことを重視するのか、安く行くことを重視するのかなど、ルートを選ぶ際、何に重きを置くかで行き方が変わります。また、風景を楽しみたい、途中で駅弁を味わいたい、寝台列車に乗って行きたいなど、興味関心によっても行き方が変わります。学習においても、到達させるべき学習のねらいに対して、どのような道筋で迫っていくかを子ども自らが選び、調整していけるような指導が求められているのです。

「協働的な学び」とは、文字どおり他者と協働しながら学ぶ学び方ですが、その姿勢について「あらゆる他者を価値ある存在として尊重すること」が求められています。予測困難な時代には、多様性を尊重し、様々な社会変化へ対応していく力が必要とされます。誰にとっても共通する一つの正解を探すのではなく、それぞれにおける納得解が得られるよう、物事を多面的・多角的に捉え、その多様性を受容し、それぞれに敬意をもって物事に取り組む姿勢が求められます。

「協働」には、単に力を合わせるという「協同」に加えて、同じ目的を達成するためにそれぞれが補完し合うという意味も含まれます。補完し合うためには、それぞれの個性に応じた活躍が必要です。これが、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るよう述べられている理由なのでしょう。

月曜朝会や各行事の挨拶などを通じて子どもたちには常に、「自分の強みを自覚して、その強みを生かした活躍をしよう」、「クラスや学校に役に立つこと（貢献）をしよう」と伝え続けてきました。「活躍」と「貢献」この二つのキーワードを具体的に示した運動会のスローガンを、子どもたち自身で考え出したことに大きな成果を感じます。

運動会本番で、子どもたち一人一人がそれぞれの輝き方で精一杯に躍動し、チームのために一生懸命に努力し、どの子にとっても「充実した時間となった」と感じられるような一日にしていきたいものです。

